公共交通の利用をそうと後押し! 「ナッジ」を活用した効果的な利用促進策の検討

三宅貴大/中国運輸局交通企画課 藤原章正・力石真/広島大学 神田佑亮/呉工業高等専門学校

森山昌幸・宮地岳志・福井のり子・岡田あかね・武田侑子・佐藤亜美/株式会社バイタルリード

- キーワード
- 地域公共交通活性化
- 態度 行動変容分析
- 心理実験
- ・ナッジ

鈴木春菜 / 山口大学

背景と 目的

- 和訳で「そっと後押しする」という意味を持つ「ナッジ(nudge)」の活用が様々な政策分野で進みつつある。
- ナッジはモビリティ・マネジメントとの親和性が高い一方で、基礎理論や具体的な手法の整理はこれまで十分に行われていない。
- コロナ禍において公共交通利用者は大幅に減少している。
- **従来から取り組まれてきたモビリティ・マネジメントの手法とナッジとを整理し、コロナ禍に対応したより効果的な公共交通利用促進策を検討する。**

ナッジとモビリティ・マネジメントの関係性

ナッジとは?

● 人々が短期的・瞬間的な選択を求められた 際、普段経験していないために、または知 識が不十分であるがために、**"なんとなく"** 不合理な行動が選択されてしまっているこ とに対して環境を改善することでより良い 選択を促す手法。

モビリティ・マネジメントとの違いは?

- ●「行動を促す」という点ではモビリティ・ マネジメントもナッジも同じ。
- モビリティ・マネジメントは、心理的方 略と構造的方略に大きく分かれるが、そ の内、心理的方略の一部がナッジに含ま れる。

★本取組のポイント

従来のモビリティ・マネジメント**の施策**をナッ **ジのフレームワークで整理**することにより、**よ** り効果的な公共交通利用促進策を検討。

モビリティ・マネジメントの基礎技術とナッジ理論(EASTフレームワーク)の関係図 EASTフレームワーク: ▶ 英国の行動デザインチーム(BIT)が作成した行動変容を促す施策の検討時に 活用できるフレームワーク 公共交通サービスの改変等 Attractive(印象的に) Social(社会的に) Timely(タイムリーに) E-1 デフォルト機能の活用 の4つの大項目、11個の小項目から構成されている A-2 インセンティブ設計 施策実施のタイミング 事実情報提供法 T-1 介入のタイミング 態度 公共交通のサービス水準や 渋滞の状況を伝える 「クルマを控えた方が楽だ」 A-1 関心をひく 実行意図 行動意図 「かしこいクルマの 知覚行動制御 公共交通の路線図や時刻表 「いつ、どこで、こういうふうに 「かしこいクルマの 使い方」の実行 「クルマを控えるのは の情報を伝える かしこいクルマの (使い方をしよう) 難しくない」 使い方をしよう」 E-2 面倒な要因の減少 依頼法 行動プラン法 「かしこいクルマの使 どのように行動を変えるか 道徳意識 自動車の社会的デメリット い方」を呼びかける を具体的に検討してもらう を伝える 「クルマを控えるべきだ」 フィードバック法 アドヴァイス法 S-1 社会的規範の提示 各人の行動パターンや どのように行動を変えるか CO2量などの情報を に関するアドヴァイスを提 フィードバックする 供する S-2 ネットワークの力の活用 S-3 周囲へ公言させる チラシ等の表現の工夫 T-3 対処方針を事前に計画 T-2 現在バイアスを考慮 E-3 メッセージの単純化 (資料)「土木学会:モビリティ・マネジメントの手引き」14頁の図をもとに作成

ナッジを活用した効果的な公共交通利用促進策の検討

簡単で、すぐにできて、

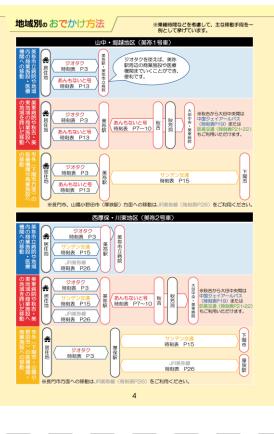
金銭的な負担が大きくない取組事例を

パンフレットにとりまとめ

地域別・目的別で探せる「おでかけガイド」

- ▶ 地域別に、通院や買い物に適した便を抜粋して掲載
- 「利用できる便、時刻や乗り継ぎの有無を調べる」という面倒 な作業を軽減





E-2 面倒な要因の減少

実施主体:広島県北広島町(左)

山口県美祢市(右)

地元の高校生と協働でPR

- 地元の高校と協働で、コミュニティバスの車両の飾り付けや
- PR動画制作を実施 ▶ 地元の高校生が関わることで利用者や地域の関心を引く

A-1 関心をひく

S-2 ネットワークの力の活用





実施主体:岡山県玉野市、両備ホールディングス株式会社

パンフレットは 中国運輸局HPから





参加表明が必要なノーマイカーウィーク

- ▶ 参加する事業所が市へ事前に参加表明することにより、行動可 能性を高める
- 事業所という**既存のコミュニティを対象とする**ことで、内部で 相互作用や互恵作用を生む
- 表彰制度が、地域に認知してもらえるという**インセンティブに**

カシコク クルマ! カシコク 公共交通! 第11回 松江市一斉 ノーマイカーウィーク ਜ਼**10月14日**(ந**~20日**(

A-2 インセンティブ設計

S-2 ネットワークの力の活用

S-3 周囲へ公言させる

実施主体:島根県松江市

生活環境が変化するタイミングで情報提供

- 中学3年生を対象に、高校通学に使える時刻表、通学用の公共 交通マップを配布
- **高校進学前のタイミングに情報提供**し、通学に適した時刻のみ を掲載することで、**調べる手間を軽減する**



E-2 面倒な要因の減少

T-1 介入のタイミング

実施主体:岡山県瀬戸内市

公共交通に合わせてイベントを開催

公民館で開催される介護予防教室の開催時間を、コミュ 二ティバスの**運行時刻に合わせて少しずらすことにより、** おのずと公共交通を選びやすくする



E-1 デフォルト機能 の活用

実施主体:山口県下松市

今後の 活用に 向けて

- ナッジを活用して日々の取組に一工夫加えることにより、**低コストでより効果的な利用促進**を実施できる可能性がある。
- 自治体による取組では、モビリティ・マネジメントの施策を参考にするとともに、交通以外で実施されているナッジ施策も参考にして、より進化した利用促進 策を展開することが不可欠である。
- 具体的な施策にナッジを取り入れ、**実験的な比較からより効果的な手法を検討することが求められる**。
- 公共交通利用促進策でのナッジ活用について、今後様々な自治体や交通事業者が取り組み、**各施策の効果・検証ができれば、他地域での展開が容易になるよう に事例のデータベース化を行うことが重要**である。